

議長記者会見（第31回）会見録

日時：平成30年12月21日（金）

午後2時から

場所：石川県議会議事堂

議長応接室



会見を行う作野議長（右）と焼田副議長（左）

私ども正副議長として3回目の議会を無事終わることが出来ました。これも関係の皆さま方のご理解とご協力のおかげだと思っております。

初めに、小松・香港定期便化についてであります。

この2年間、チャーター便を運航しまして、高い搭乗率を記録してきたキャセイパシフィック航空が、いよいよ来春の夏ダイヤにおいて定期便の運行を固めました。

県議会としても、これまで執行部と連携しながら小松空港国際化推進議員連盟で、長年にわたり重点的に取り組んで来た路線であります。

先月も当議連が香港を訪問しまして、定期便就航に向けた働きかけを行ったところであります。まさに、本県の宿願がかなったものと感慨深い思いがあります。

議会としては、執行部と連携しながら、定期便の安定的な運航に向け、今後もしっかりと

支えてまいりたいと思っております。

1 今定例会を振り返って

それでは、本定例会を終えての所感を述べさせていただきます。

今ほど小松・香港定期便化の話をしました。のと空港においても開港15年目の利用者数が過去最高を記録するなど、新幹線開業以来、本県への観光誘客は好調を維持していますが、来年のラグビーワールドカップ、再来年の東京オリンピック・パラリンピック、2021年に関西で開催されますワールド マスターズ ゲームズ、2023年春の北陸新幹線敦賀開業、さらには2025年の大阪万博というビッグイベントを追い風に、更なる誘客に取り組む必要があります。

今議会でも、今後のクルーズ船寄航予定、観光地等におけるWi-Fiの整備状況、観光誘客用のブランドロゴ・キャッチフレーズの作成や、女性をターゲットに絞った誘客など、数多くの質問や提案が出ました。

議会としても、正に今が千載一遇の好機と捉えまして、観光誘客の更なる拡大につながるよう執行部としっかり取り組んでまいりたいと思います。

そして、こうした好調な観光誘客も相まって、本県の経済状況もかつてない好調を維持しています。一方で、この好調な県内景気を維持発展させるためには、人手不足に対応した人材確保の取り組みも重要な課題であります。

こうしたことから、今議会でも、今月、金沢、東京に次ぐ3拠点目として、大阪でも開設されたILACの成果や周知の強化、外国人高度人材の県内企業への就職支援、AI・IoT技術支援工房における中小企業支援など、人手不足・人材確保対策についての質問が数多く出ました。

議会としても、本県の好調な景気の維持・発展のため、時機を逸しないように議論を深めるとともに、執行部とともにしっかりと取り組んでまいりたいと思います。

そして今年も、1、2月の大雪に始まり、6月の大阪北部地震、7月の西日本豪雨災害と酷暑、8、9月の台風被害、北海道胆振東部地震と、全国的に大規模な自然災害に見舞われた年でもありました。

こうしたことから、今議会でも、災害に備えた取り組みとして、大規模停電も想定した被害想定の見直し、災害ボランティアバンクの登録状況や、学生防災士の育成など、多岐にわたる質問が数多く出ました。

議会としても、執行部とともに県民の安全・安心の確保に、しっかりと取り組んでまいりたいと思います。

北陸新幹線については、これまでも議会で数多くの議論をしてまいりました。

今議会でも、北陸新幹線の県内全線開業に向け、開業効果を引き出す施策案を全国から募集する「いしかわ魅力”再発見”コンテスト」の応募状況などの質問がありました。

また、東京オリンピック・パラリンピック開催期間中の開館を目指す東京国立近代美術館

工芸館の移転についても質問がなされました。施設の通称や具体的な移転作品などについて国と協議をしており、また、開館時期の前倒しについても要請したい旨の意向が明らかになっております。

議会としても、新幹線開業効果の維持につながるよう、執行部と連携しながら、しっかりと支えてまいりたいと思います。

次に、今定例会中に可決された意見書についてであります。

「意見書等調整会議」におきまして、調整された結果、各会派から提案のあった7件の意見書のうち、「ライドシェア導入について慎重な検討を求める意見書」など4件が可決されました。

可決された意見書4件については、議会としていずれも国へ要望するものであり、国会及び関係行政庁へ提出することとしております。

2 1年を振り返って

最後に、今年1年を振り返りますと、最初の方でも申し上げましたが、全国的に大規模な自然災害に見舞われた年でありました。本県では、幸いにも甚大な被害は発生しておりませんが、記録的な大雪に始まり、能登地方の水道管凍結による断水、夏場の中能登地方を中心とした大雨、そして秋の台風と、県内各地で多くの被害が発生するなど、正に災害の1年であったと思います。

一方で、うれしいニュースもたくさんあった年でもあります。

8月には、皇太子殿下のご臨席を賜り、珠洲市において「第17回日本スカウトジャンボリー」を開催、9月には、福井県で開催された国体にご出席されるため、天皇、皇后両陛下がご来県し、11月には、和倉温泉で開催された「第63回水族館技術者研究大会」にご出席されるため、秋篠宮殿下がご来県されております。

私は、いずれの機会も議長として、お出迎え等をさせていただきましたが、両陛下、両殿下のお姿は、県民の皆様の心にも良い思い出として刻まれたものと考えており、深く感謝を申し上げます。

県政においては、1月にリニューアルした県立中央病院で、9月からドクターヘリが運航を始めました。

また、東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、金沢に移転する東京国立近代美術館工芸館が4月に、金沢城公園鼠多門が6月に、鼠多門橋が10月に、金沢港クルーズターミナルが11月に起工されております。

本県スポーツ界でも、うれしいニュースがありました。

10月のレスリング世界選手権において、本県出身の川井梨紗子選手が、2年連続で金メダルを獲得、また、11月の世界トランポリン競技選手権大会女子シンクロナイズド競技において、金沢学院大学の森ひかる選手と同大学出身の宇山芽紅選手が、金メダルを獲得されております。

世界大会における相次ぐ本県関係者の活躍は、県民に大きな夢と感動を与えるとともに、本県の名を大いに高めるものであり、こうした功績をたたえ、川井、森、宇山の3選手には、県スポーツ特別賞が贈呈されております。

さらに11月には、能登の「あまめはぎ」のユネスコ無形文化遺産への登録、そして今月には、冒頭でも話をしましたが、議会としても念願であった、キャセイパシフィック航空の小松・香港便の定期便化という、うれしいニュースも飛び込んでまいりました。

また、こうした中、県議会では10月に、本県議会と友好交流に関する協定等を締結している韓国・全羅北道議会と、台湾・台南市議会へ、私と本県議会議員団が訪問いたしました。

訪問では、本県議会と両議会が、明るい未来に向け、お互いに発展できるように、各々の議会議員と情報交換を行うなど交流を深めてまいりました。

今年は災害だけではなく、我々議会や執行部、そして県民の皆さま方が、一緒になって取り組んで来たことなどが正に成果となって現れた、石川県の発展する姿を目の当たりに出来た、このような1年でもあったと思います。

私からは、以上であります。

3 質疑応答

記者

今ほど議長から、この1年間を振り返っての所見がありましたが、副議長からもご所見を伺いたいのですが。

焼田副議長

この議会についてですけれど、小松・香港便の就航が決まったということがあげられていますけれど、議連の方で、やはり議員としての活動が実を結んだということは、一番大きな成果だったというふうに思います。

今後、いろいろなところの就航可能な所に議員として訪問して、また県民の皆さんのニーズに沿った行き先、そういった所がまた広がっていけば、小松空港の国際化に向けていろいろと推進できるのではないかというふうに思いますので、期待したいなと思っておりますし、良い、中身の濃い議会だったかというふうに思います。

記者

小松空港の国際化の推進に向けて、議会としてもという認識でよろしいでしょうか。

焼田副議長

はい、そうですね。

焼田副議長

それと11月の25日でしたっけ、県の防災訓練、私も議長と一緒に訓練に参加したのですけれど、ドクターヘリが初めて防災訓練に参加したということもありました。やはり、その辺りのニーズもこれからも高まってくるのではないかと、緊急性のある場合、石川県には舳倉島を筆頭にそういった離れた所で医療の役割が少し遅れがちな所もあるので、そういった所にも素早く行けるということはやはり良いですし、また、白山とかそういった所の事故にも対応出来ると思いますので、これから活躍というとは何ですが、これから良い方へ利用されればと思っております。

記者

議長、来年に向けてこんな1年にしたいという思いはありますか。

作野議長

さらに前進。

先ほども言いましたけれど、これまでいろいろとやってきたことが、今年実を結んだということですから、ここで終わるのではなく、来年も延伸していくとか、進めていくとか、更に大きく開花させて行ければ良いのではないかと思います。